

岡病防第16号  
平成25年8月30日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長  
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第6号を下記のとおり発表したの送付します。

平成25年度病虫害発生予報第6号

平成25年8月30日  
岡 山 県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稻	穂いもち 紋枯病 白葉枯病 穂枯れ もみ枯細菌病 トビイロウンカ	並 — — — —	並 やや多 並 やや少 並
ダイズ	べと病 紫斑病 葉焼病 ハスモンヨトウ カメムシ類	— — — —	やや多 やや多 やや多 並 やや少
モ モ	モモハモグリガ ハダニ類 ウメシロカイガラムシ	— — 並	やや少 やや少 やや多
ブドウ	褐斑病 べと病 さび病 ブドウトラカミキリ	遅 — — —	並 並 並 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病 うどんこ病	— — やや遅 —	並 やや少 やや少 やや多
トマト	疫病 斑点細菌病 葉かび病	— — —	並 やや多 やや多
アブラナ 科野菜	アブラムシ類 モザイク病 コナガ ハイマダラノメイガ	— — — —	やや少 並 やや少 やや多
キ ク	ナミハダニ	—	やや少

1. 普通作物

(水 稻)

(1) 穂いもち (晩生種)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. イネ (晩生種) の生育は全体におおむね平年並である。

イ. 8月15～16日の巡回調査によると、南部地帯の穂いもちの発生圃場率は51.4%で、平年(54.7%)並であった。

ウ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 紋枯病 (晩生種)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月15～16日の巡回調査によると、発生圃場率は40.4%で平年(41.6%)並で、発病程度は軽微であった。

イ. イネの茎数は平年並からやや多であり、やや助長する条件となる。

ウ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並とされており、発病を助長する条件となる。

(3) 白葉枯病 (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月15～16日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

(4) 穂枯れ (ごま葉枯病菌による穂枯れ、晩生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月15～16日の巡回調査によると、葉でのごま葉枯病の発生圃場率は3.4%で平年(29.6%)より低く、発病程度の高い圃場は認められなかった。

ウ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発病を助長する条件となる。

(5) もみ枯細菌病 (晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 前年度の発生量は平年よりやや少なかったことから、本年度の種子の保菌率は平年より低かったと考えられる。

イ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発病を助長する条件となる。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月1半旬～5半旬の誘殺数は4頭で平年(

2.5頭) よりやや多かった。

イ. 8月15～16日の巡回調査によると、発生圃場率は1.1%で平年(2.7%)並であった。

ウ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(ダイズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発病をやや助長する条件となる。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発病をやや助長する条件となる。

(3) 葉焼病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発病をやや助長する条件となる。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬の誘殺数は1,102頭と平年(1,119.4頭)並であった。

イ. 8月15～16日の巡回調査によると、白化葉の発生圃場率は7.7%で平年(6.8%)並であり、発生程度は軽微であった。

ウ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(5) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における8月1半旬～5半旬の誘殺数は、アオクサカメムシは3頭(平年5.7頭)、イチモンジカメムシは12頭(平年17.8頭)でいずれも平年よりやや少なかった。

イ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発生を助長する条件ではない。

2. 果樹

(モモ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬の誘殺数は1頭で平年(29.5頭)より少なかった。

イ. 8月6日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(8.1%)より低かった。

防除上の参考事項

ア. 平成25年度植物防疫情報第4号(平成25年5月27日発表)参照

(2) ハダニ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月6日の県南部における巡回調査によると、発生圃場率は14.3%で平年(50.4%)より低かった。発生程度が中程度以上の圃場率は0%で平年(16.7%)より低かった。

イ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(3) ウメシロカイガラムシ(第3世代)

予報内容

発生時期 並

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 第2世代成虫の推定50%抱卵日は8月27日で平年(8月27日)並であった。

イ. 7月17日の巡回調査では第2世代成虫の発生圃場率は2.7%で、平年(1.4%)よりやや高かった。

ウ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(ブドウ)

(1) 褐斑病

予報内容

発生時期 遅

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(13.2%)より低かった。

イ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、降水量が多い場合には発病を助長する条件となる。

(2) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査によると、発生圃場率は66.7%で平年(80.3%)並、発病程度は低い圃場が多かった。

イ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、降水量が多い場合には発病を助長する条件となる。

(3) さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査によると、発生圃場率は18.3%で平年(3.8%)より高いが、発病程度は低い圃場が多かった。

イ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、降水量が多い場合には発病を抑制する条件となる。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月6日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

3. 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月22~23日の巡回調査によると、発生圃場率は50.0%で平年(41.6%)並であった。

イ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされている。高温は発病を抑制するが、降水量が多いと発病を助長する条件となる。

(2) 褐斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月22~23日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(75.3%)より低かった。

イ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発病をやや助長する条件となる。

(3) 炭疽病

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8月22~23日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(13.7%)より低かった。

イ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発病を助長する条件となる。

(4) うどんこ病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月22~23日の巡回調査によると、発生圃場率は75%で平年(34%)より高かった。

イ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、

降水量は平年より多いとされており、発病を抑制する条件となる。  
防除上の参考事項

ア. 本病はやや乾燥条件下で発生しやすく、雨の当たらない施設栽培で発生しやすい。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 8月22～23日の巡回調査では発生を認めず、平年(0.2%)並であった。

イ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされている。高温は発病を抑制するが、降水量が多いと発病を助長する条件となる。

(2) 斑点細菌病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月22～23日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発病をやや助長する条件となる。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8月22～23日の巡回調査によると発生圃場率は40.0%で、平年(22.2%)よりやや多かった。

イ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、発病をやや助長する条件となる。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 やや少  
モザイク病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場(赤磐市)の黄色水盤における8月1半旬～5半旬の飛来数は210頭で、平年(385.1頭)よりやや少なかった。

イ. 8月22日の巡回調査によると、ダイコンでのアブラムシ類の発生を認めず、発生圃場率は平年(6.1%)より低かった。

ウ. 8月23日の季節予報によると、9月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

エ. 8月22～23日の巡回調査によると、ダイコンのモザイク病の発生圃場率は16.7%で平年(18.1%)並であった。

(2) コナガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）における 8 月 1 半旬～ 5 半旬のフェロモントラップの誘殺数は 2 頭で、平年（3.4 頭）よりやや少なかった。

イ. 8 月 23 日の巡回調査によると、ダイコンでの発生は認められず、発生圃場率は平年（49.9%）より低かった。

(3) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 8 月 23 日の巡回調査によると、県南部のチンゲンサイでの発生圃場率は 25.0% で、平年（14.3%）より高かったが、発生程度は軽微であった。

イ. 8 月 23 日の季節予報によると、9 月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 幼苗期に加害されると被害株は心止まりになるので、早期発見・早期防除に努める。

イ. 育苗期間中に寒冷紗で被覆を行うと、成虫の侵入・産卵防止に有効である。

4. 花 き

(キク)

(1) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 8 月 23 日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（22.8%）より低かった。

イ. 8 月 23 日の季節予報によると、9 月の気温は平年より高いか平年並、降水量は平年より多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239) です。